

1. 神は、私たちがいま話している後の世を、御使いたちに従わせることはなさらなかったのです。むしろ、ある個所で、ある人がこうあかししています。「人間が何者だというので、これをみこころに留められるのでしょ。人の子が何者だというので、これを顧みられるのでしょ。(2:5-6)
 - a. 私たちは福音のメッセージを受ける時に常に注意を払い、この世的な誘惑にとらわれることなく、また天の超自然的な存在にも惑わされることなく、私たちが御子イエス・キリストを通して与えられている上からの召し（コーリング）にしっかりと結びついていなければならない。
 - b. イエスは私たちの主であり救い主である。またイエスは父なる神の型であり、神が私たち人類に求めておられる姿の生きた見本である。
 - c. 御使いは優れた存在だが（御使いについてもさらに学ぶ必要があるだろう。今の世の中では御使いの正しい理解がなく、御使いがないがしろにされている傾向がある。）神の人類に対するご計画は御使いに対するそれよりもはるかにまさっている。神は万物を私たちの下に従わせるようにされた。

2. あなたは、彼を、御使いよりも、しばらくの間、低いものとし、彼に栄光と誉れの冠を与え、万物をその足の下に従わせられました。」万物を彼に従わせたとき、神は、彼に従わないものを何一つ残されなかったのです。(2:7-8a)
 - a. 今のところは私たちは御使いよりは力がなく低いものとして造られているが、神のご計画では私たちは栄光の誉れの冠を受け、いずれは御使いよりも大きな権威と力を持つことになっている。
 - b. 私たちは神と共に働き、ともに相続する者として召されている。
 - c. ただ、今はまだ私たちは低くされており、注意すべきはこの「少し低い」ところにいる間私たちが人生の究極的なコーリングに敏感にならないと、過去のイスラエルの民やアダムとイブのように、それを逃してしまうことになる。

3. それなのに、今でもなお、私たちはすべてのものが人間に従わせられているのを見てはいません。ただ、御使いよりも、しばらくの間、低くされた方であるイエスのことは見ています。イエスは、死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠をお受けになりました。その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものです。(2:8b-9)
 - a. それゆえ私たちは御使いに捕らわれたりこの世のものに惑わされることなく、私たちの主、イエス・キリストだけに目を留めていなければならない。
 - b. 私たちには、いずれは御子とともに統治するというこのすばらしいコーリングがある。したがって今の世の中にはある意味不満がたまるかもしれないが、今はまだその時が来ていないのである。
 - c. しかしこの現実を見る時、この地上で歩まれたイエスのことを考えてみよう。イエスもまた神の怒りを受け御使いよりも低くされたが。死の苦しみのゆえに栄光と誉れの冠をお受けになった。
 - d. 私たちがイエスに目を向け福音のメッセージを受ける時、現在の肉体の命は神が私たちを大きな木に育て上げるための小さな種でしかない。そして神が計画されているような木になるためには種は死ななければならない。
 - e. 聖書を通して学ぶ霊的教訓は、私たちが通る苦しみが大きければ大きいほど、私たちが成長する土壌は豊かになる、ということである。